

## 岡崎家康公周年祭を事例とした歴史を利用した地域イベントとまちとの関係の変遷

### The Transition of Relationship between Regional Events and Town Using History as a case study of the Okazaki Ieyasu public anniversary festival

長谷川 千紘\* 伊藤 弘\*\* 武 正憲\*\*

Chihiro HASEGAWA Hiromu ITO Masanori TAKE

**Abstract:** This paper aims to clarify the relationship between the situation of the local society and the expected role of the regional history events which were related to Tokugawa Ieyasu, held in Okazaki city, Aichi Prefecture, every 50 years. From the literature survey, we categorized the events as "traditional type", "participatory type", "viewing type", "outgoing type / installation", and examined the influence on the city from the situation grasp of Okazaki City before and after the regional history events. With each passing times, the "participatory type" events involving contents or places in the Tokugawa clan declined. The 300-year festival and the 350-year festival held when the society changed, such as municipal mergers, showed a new administration and a well-established foundation, the Tokugawa clan was taken up as a symbol of integrating humanity, but in the society The 400th anniversary project held at the time when no change was seen has become more like the national policy such as interregional exchanges and wide area cooperation than the town situation. It is difficult to say that the entire city area is related to the Tokugawa clan by merging municipalities, and even if the city area expands, the spread of the event hosting area may be restricted.

**Keywords:** regional events, historical events, community development

**キーワード:** 地域イベント, 歴史イベント, まちづくり

#### 1. 序論

##### (1) 研究背景

近年、歴史資源や歴史に関するテーマを利用した時限的なイベントが各地で見られ、そのまちづくりへの展開の期待や可能性が指摘されており<sup>1)</sup>、歴史的空間の展示のあり方<sup>2)</sup>や参加者によるイベントとまちへの評価の関係<sup>3)</sup>、イベントのまちづくり事業への展開過程などをみたものがある。しかし、そもそも行政が歴史をテーマにすることの意図などについては、明らかになっていない。愛知県中部に位置する岡崎市は徳川家康生誕の地であり、長きにわたり地域をあげて、家康公薨去をテーマとした複数の歴史イベントに取り組んでいる。この地域をあげて取り組む複数の歴史イベント(以下、歴史事業と記す)は、家康が亡くなった1615年から300年という節目を迎えた1915年に始まり、その後1965年、2015年と50年ごとに実施されている。社会的・空間的にまちの様相が大きく変化したことが考えられるこれら100年間において、各地域イベントの特徴とその時のまちの状況及び歴史イベントの関係を整理し、改めて地域歴史イベントの狙い及びその具体的内容を把握する必要がある。

##### (2) 研究目的と対象

前述した通り、愛知県岡崎市で徳川家康公薨去にちなんでこれまでに50年周期で開催されてきた「家康公薨去記念事業」(「家康忠勝両公三百年祭(以下、300年祭)」(1915年)、「家康公三百年祭(以下、350年祭)」(1965年)、「徳川家康公顕彰四百年記念事業(以下、400年記念事業)」(2015年))を対象に、それぞれの地域歴史イベントの趣旨及びそこで取り組まれた歴史イベントをはじめとする各イベントの内容と、開催時の岡崎市の社会状況を整理し、なぜ地域歴史イベントを開催したのかという、地域歴史イベントに期待された役割を明らかにすることを目的とする。

##### (3) 論文の構成と研究方法

はじめに、対象地の岡崎市の特徴をみるため、文献資料から岡崎市の概要と変遷を整理し、岡崎市の指定文化財の指定背景・状況・所在地を把握し、徳川家を中心とした岡崎市の文化的特徴を

把握した。次に300年祭・350年祭・400年記念事業毎に、各家康公薨去記念事業の内容及びその時のまちの状況等を分析した。各地域イベントの特徴を把握するため、家康公薨去記念事業が行われた際の記録誌やその当時の新聞記事から、地域歴史イベントの開催背景・目的・期間・内容と主催者の性格、各歴史イベントの内容及び開催場所における徳川家を中心とした史実の扱われ方を把握した。イベントは、家康公薨去記念事業主催者が行うイベントを主催イベント、主催者以外の団体が行うイベントを関連イベントとして整理した。また、各イベントの特徴を把握するに当たって、徳川家との関係(内容及び場所)と観客の関わり方(伝統的な祭礼などの「伝統型」、家康行列やゴルフ大会など住民を含む観客が能動的に参加する「参加型」、記念シンポジウムなど観客が受動的に見るだけの「観覧型」、記念誌発行や記念碑設置など特定の観客の体験とはならない「発信・設置」)から把握した。そして、地域歴史イベント前後の岡崎市の状況を把握し、市への影響を考察した。結論では調査の分析結果を踏まえ、岡崎市の状況と家康公薨去記念事業での史実の扱われ方の関係を整理し、地域歴史イベントに期待された役割を考察した。

#### 2. 岡崎市の概要

##### (1) 概要

岡崎市は愛知県の中央部に位置し、名古屋市からは約35km離れている。人口は2017年12月1日現在386,595人であり、現市域の広がり方は、東西29.1km、南北20.2km、総面積は387.24km<sup>2</sup>である。市内には国道1号線が東から西へと通っており、名古屋と豊橋を結ぶ中間地点として発展してきた。東岡崎駅北西部が旧岡崎町で現在も中心市街地となっており、岡崎城や岡崎公園など主要な地域資源や都市施設が集まっている。

享禄3年(1530)、松平清康が三河を平定し、翌年岡崎城を現在の場所に移築した。のちに、田中吉政が岡崎城主となって城下町の建設が始まり、二十七曲り(屈折の多い道筋)が整備されていった。江戸時代に入ると、歴代の将軍によって岡崎市内の寺社仏閣の修理が行われた。明治時代の廃藩置県後、廃城となった岡

\*株式会社地域総合計画研究所 \*\*筑波大学芸術系

崎城は城郭が取り壊されたが、日本丸の区域が公園となった。のちに本多家から譲り受け、岡崎町が維持管理を行った。

岡崎市では明治22年(1889)には町制が施行され、大正3年(1914)に広幡町と合併した後、大正5年(1916)に市制が施行された。昭和時代には4回にわたって合併(昭和3年、昭和30年2月・4月、昭和37年)が行われ、平成18年(2006)には山間部の額田町と合併した。

市域の拡大とともに道路の整備や公共施設の移転・新築が行われてきた。昭和34年(1959)には岡崎城天守閣が復元され、それに合わせて市内主要路の整備も行われた。額田郡公会堂や図書館などの公共施設は、昭和45年(1970)以降に多く整備された。

### (2) 文化財と徳川家

岡崎市と深いかかわりを持っている徳川家と関係する寺社仏閣等が保有している国指定・県指定・市指定文化財の数(全309件)をみると、最も多く文化財を保有しているのは大樹寺(21件)であった。大樹寺は岡崎市の歴史の中でも徳川家と非常に関係が深く、家康の祖父松平清康や父の広忠といった松平8代の廟所も寺内にあることから、家康の生前から死後、後継の将軍たちによって修理・修復作業が行われ続けるなど、徳川家にとって大樹寺は非常に重要な寺院であった。妙源寺や滝山寺にも文化財の保有数は多かった(それぞれ18件と17件)。滝山寺に隣接して滝山東照宮があり、徳川家と関係する寺社仏閣は岡崎市内に分散している。

## 3. 地域歴史イベントの内容

各地域イベントが開催される度に市域は合併によって拡大していった(図-1)。

### (1) 家康忠勝両公三百年祭

300年祭は在東京本多子爵家が主催者となり、岡崎町を社会に紹介し、町民の公德心・海外思想を養成し、偉人(家康)の追慕を目的に3日間開催された(表-1)。主催者は在東京本多子爵家であり、総長に本多家に仕えた軍人土屋光春、副長に同じく本多家に仕えた軍人であり当時の丸善社長である小柳津要人・志賀重昂といった名士が中心となっていた。その他、当時の県会議員や町会議員、岡崎銀行頭取、岡崎商工会議所会頭などが主催者に名を連ねていたが、実質取り仕切っていたのは、国粋主義者であり「日本風景論」を執筆したことで知られる志賀重昂であった。志賀は、生まれ故郷であり徳川家康を輩出した三河に郷土愛・郷土意識を強く抱いており<sup>5)</sup>、開催目的にその主義主張が色濃く反映されている。志賀は、イベントの内容の考案、ゲストスピーカーの選定、提灯行列の歌の作詞、展覧会への出品、講演会の講師などを行い、この事業に対して大いに貢献し成功へ導いたとされている。

イベントはほとんどが岡崎町内で行われていたが、岡崎町外にある大樹寺でも300年祭として法会が行われていた。

主催者によるイベント(主催イベント)として、参加型であり徳川家と関係のある大名行列と神輿渡御の二つが同時に行われ、同じコースで町内を練り歩いた。また、「家康と日英の関係-附忠勝公の大事-」「徳川家康を論じて-功臣としての本多忠勝の事蹟に及ぶ-」と家康に関する観覧型の講演会も行われた。大名行列よりも狭い範囲で町内を移動する参加型の提灯行列も行われた。主催イベントは徳川家と関係する場所で多く開催されていた(表-2)。

主催者以外による関連イベントとして、徳川家と関係のある岡崎公園では生花大会や角力などの参加型が行われ、額田郡物産陳列所など徳川家と関係ない場所では観覧型の郡内土産物の陳列会などが多く行われた。関連イベントは、徳川家と関係ないイベントが、徳川家と関係ない場所で多く行われていた。徳川家と関係

ある場所は岡崎公園が多かった(8件中5件)。一方、岡崎協賛会によって大樹寺の法会などの伝統型も行われた。関連イベントは、町会議員らによって編成されたと考えられる<sup>6)</sup>大祭餘興事務所や岡崎協賛会主催が多かった。

### (2) 家康公三百五十年祭

350年祭は、特別に編成された家康公三百五十年祭奉賛会が主催者となり、「花と家康の岡崎」の紹介宣伝、地域経済の伸展と観光への寄与を目的に20日間開催された(表-1)。家康公三百五十年祭奉賛会の常任委員は岡崎市役所職員、岡崎警察署、岡崎消防署、岡崎商工会議所職員、岡崎市文化財保護審議会、岡崎市総代会連絡協議会、岡崎商店街連盟、岡崎市仏教会、神社庁岡崎支部、岡崎婦人連絡協議会、岡崎市青年団体連絡協議会、住職、宮司、岡崎市少年団後援者連絡協議会、岡崎青年会議所、名古屋鉄道株式会社、龍城神社敬神婦人会、岡崎旅館組合など様々な地域団体が含まれ、主催イベント・関連イベントともに300年祭に比べて非常に多くなった。

市町村合併によって市域が拡大した後の350年祭でも開催地の広がりはなく、旧岡崎町内でほとんどのイベントが行われた。旧岡崎町外では、300年祭に続いて大樹寺において大法要が主催イベントとして行われ、さらにゴルフ場の葵カントリーにおいて関連イベントとしてゴルフ大会が行われた。

主催イベントは、岡崎公園と主要道路で多く行われた(5件ずつ16件中)。主要路では、事業の記念に家康の幼少をテーマに作曲された「竹千代音頭」に合わせた市民の発表会やカーニバルなど徳川家と関係ないイベントが行われた。また、昭和23(1948)年の龍城神社の火災により行われなくなってしまった元々明治時代から龍城神社の例祭であり、昭和34(1959)年の岡崎城天守閣再建を契機に復活し、現在まで毎年行われるようになった家康行列も350年祭のイベントとして行われた。徳川家と関係ない場所、関係ない内容のイベントが多くなったものの、主催イベントは徳川家と関係ある場所、関係ある内容の方がやや多くあった。

関連イベント毎の主催者は資料が残っておらず不明だが、オール三河婦人手芸編物作品展は婦人文化センターで、愛石展示会が

表-1 家康公薨去記念事業の目的・主催者等

	300年祭	350年祭	400年記念事業
開催目的	・岡崎町を広く社会に紹介 ・町民の公德心並びに海外思想の養成 ・偉人追慕	・「花と家康の岡崎」の紹介宣伝 ・地域経済の伸展と観光に寄与	・岡崎の知名度向上 ・家康公を核とした交流人口の増加による地域活性化
期間	1915年4月16日-18日	1965年4月1日-20日	2015年1月1日-12月31日
主催	在東京本多子爵家	家康公350年祭奉賛会	徳川家康公薨去四百年記念事業岡崎協会実行委員会
イベント数	主催イベント：9 関連イベント：22	主催イベント：16 関連イベント：39	主催イベント：8 関連イベント：61

表-2 事業別イベントの特徴

	徳川家との関係		伝統型	参加型	観覧型	発信設置	総計
	場所	内容					
300年祭	有り	有り	3(1)	2(2)	1(1)		6(4)
		無し	1(1)	6(2)	2(0)		9(3)
	無し	有り		4(0)	6(2)	4(0)	14(2)
		無し					
		計	4(2)	12(4)	10(3)	5(0)	31(9)
350年祭	有り	有り	2(2)	2(2)	3(2)		7(6)
		無し		11(2)	2(1)		13(3)
	無し	有り		2(2)	3(1)		5(3)
		無し		21(2)	9(2)		30(4)
		計	2(2)	36(8)	17(6)		55(16)
400年記念事業	有り	有り	2(0)	4(1)	11(1)		16(2)
		無し	2(0)		3(0)		5(0)
	無し	有り			17(3)	3(0)	21(3)
		無し		2(0)	10(1)	15(2)	27(3)
		計	4(0)	6(1)	41(5)	18(2)	69(8)

( ): 主催イベント件数 網掛け：5件以上の事業別上位3位

本町ストアで行われていたことから、主催者の一部である各地域団体が主催して関連イベントを運営していたと考えられる。関連イベントは参加型が圧倒的に多く、徳川家に関する岡崎公園では詩吟会や剣舞大会・舞踊大会などの伝統的なものが、それ以外の場所では同じく伝統的なものに加えてバレーボール大会やゴルフ大会などレクリエーション的なイベントが行われた。

### (3) 徳川家康公顕彰四百年記念事業

400年記念事業では、静岡市主導で浜松市と連携して1年間かけて行われた。3市による徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会が主催し、各市の事業運営は各市部会によって行われた。岡崎部会実行委員会の構成委員は、岡崎市役所・岡崎商工会議所・岡崎市観光協会で構成されていた。400年記念事業の目的は、徳川家康が築いた時代の再考、その知恵を未来へ発信、地域の魅力向上と活性化であり、岡崎部会の目標は、岡崎の知名度向上と家康公を核とした交流人口の増加による地域活性化である(表-1)。

「平成の市町村合併」によってさらに市域が拡大してはいるものの、拡大した範囲が山間地ということもあり、イベント開催地のほとんどは依然として旧岡崎町内であった。旧岡崎町外では、引き続き大樹寺で徳川家康公四百回忌法要が行われた他は、藤川宿のあった藤川町、岡町にある愛知産業大学で、それぞれ田んぼアートや家康公四百年祭おかざきPR隊退任式といった、徳川家とは関係のない関連イベントが開催された。

本事業の中心であり、岡崎城を「おかざき大江戸座」、「家康公夢シアター」とエリア設定し、家康の軌跡を辿りながら江戸の食・暮らし・娯楽を体験できるイベントが行われた岡崎城まつりは、新たな取り組みとして行われた主催イベントである。主催イベントは、他にシンポジウムや座談会などが、徳川家と関係ないホテルや公民館で行われており、岡崎まつりを除いては、徳川家と関係ない場所で徳川関連のイベントが多く行われていた。

関連イベントは非常に多く、岡崎市美術館や岡崎市文化芸術部

中央図書館といった地域団体の他に、愛知県観光交流サミット、吉本興業など外部団体によっても行われた。福祉会館や図書館などでの徳川家に関するシンポジウムや講演会が多かった(14件)。また、「るるぶ岡崎」の発行や事業のプロモーションなど発信・設置も多かった(13件)。徳川家と関係した観覧型も多く、桶狭間や浜松城も組み込んだ広域のバスツアーなどがみられた。300年祭と350年祭では主催イベントであった町中を練り歩く家康行列(300年祭では大名行列)は、岡崎市と岡崎市観光協会による関連イベントとなった。

### (4) 家康公薨去記念事業の変遷

300年祭では名士や町会議員が中心となって岡崎の有志と共に事業に取り組んでいた。実質は志賀が取り仕切っており、郷土愛の高揚が色濃く反映されていたといえる。350年祭では行政に加えて様々な地域団体が運営に携わっており、目的に郷土愛の高揚は見られず、外部への発信及び地域活性化に重きが置かれていた。400年記念事業では、広域連携のもと市が一部を運営していた。

徳川家と関係があり旧岡崎町の中心部にある、岡崎城を含む岡崎公園・龍城神社・伊賀八幡宮と、旧岡崎町外ではあるが徳川家と強い関係を有している大樹寺ではイベントが継続して行われていた。しかし、大樹寺に次ぐ指定文化財数を持ち、徳川家と関係ある妙源寺や滝山寺は、中心部から離れていることもあり、イベントの開催地となることはなかった。時代が下がる(300年祭から400年記念事業に至る)毎に、徳川家に関する場所よりも関係ない場所で行うイベントの割合が多くなり、350年祭では主要道路でのイベントが、400年記念事業ではホテルや公共施設でのイベントが多くなっていった。また、400年記念事業では広域連携のもと市外にも広がるバスツアーなどのツアーが多くなっていった。

300年祭及び350年祭では参加型が多く、特に350年祭でレクリエーション的な性格を有す参加型が顕著である。しかし、400年記念事業では事業のプロモーションなど発信・設置が最も多く

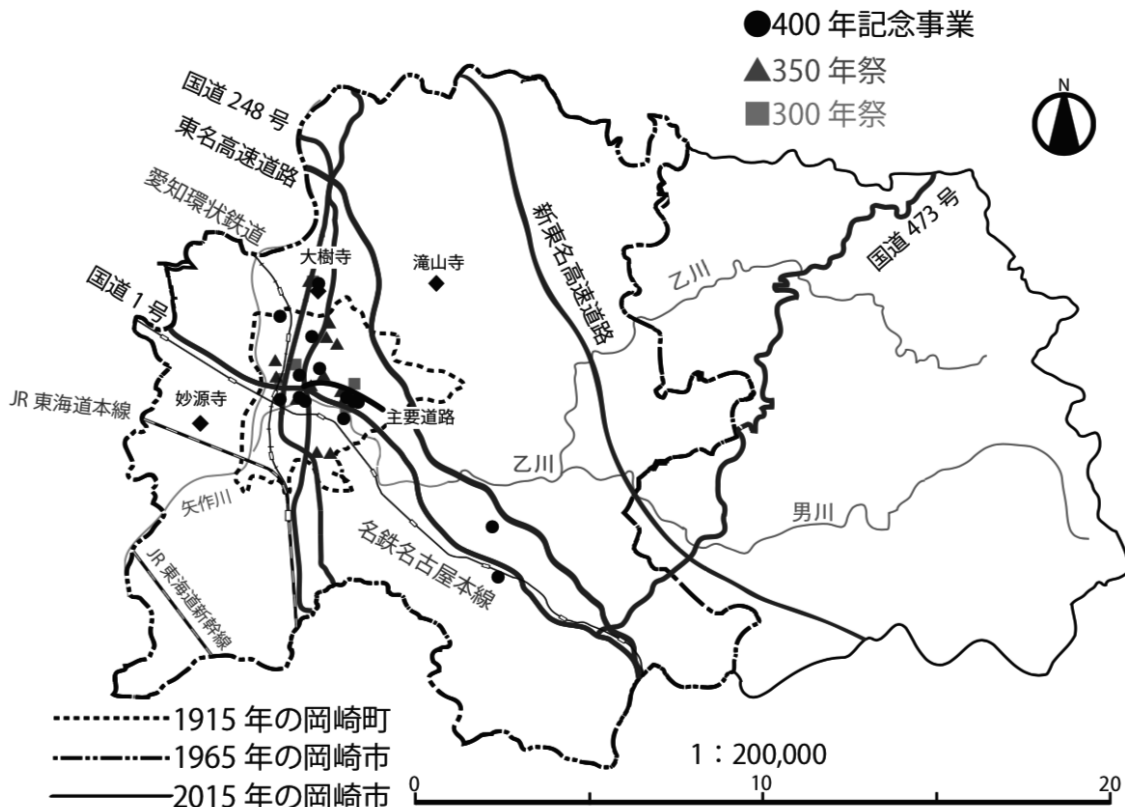


図-1 各回において行われた家康公薨去記念事業の場所と市域の広がり

なり、参加型が激減している。

家康行列は継続して行われてきたイベントであるが、400年記念事業では主催イベントから関連イベントとなり、更に発着が岡崎公園から岡崎公園に隣接する乙川河川敷になるなど変化している。

#### 4. 家康公薨去記念事業前後の岡崎の状況

岡崎市のまちづくりと家康公薨去記念事業の関係をみるため、事業前後での岡崎市の状況を把握した。

##### (1) 300年祭 (1915)

300年祭前の明治43(1910)年頃から市制施行調査委員が置かれ、「市制施行内申書」や「岡崎町二市制実施意見書」を提出するなど、市制施行に向けた運動が本格的に始まった。大正2(1913)年には龍城神社の本殿と拝殿を新しくし、額田郡公会堂(現：岡崎市郷土館)が建設された。翌年に、岡崎町宝来座で市制施行実現のための町民大会が開かれた。既に述べたように、大正4(1915)年の300年祭は岡崎公園を中心に開催され、龍城神社や額田郡公会堂はこの事業での利用を契機に様々な祭典で使われるようになった。事業後、岡崎公園では公園改造の機運が高まり、大正8(1919)年に「岡崎公園改修5カ年計画」が立てられ、再整備された。

##### (2) 350年祭 (1965)

昭和30年と昭和37(1962)年に行われた昭和の大合併で市域が拡大した(図-1)。昭和33(1958)年以降5年にわたって岡崎市では文化財指定が多く行われた。昭和34(1959)年には岡崎城天守閣が復元され、それに合わせて市内主要路の整備も行われた。整備された主要道路でイベントが多く開催されたが、この時期に指定された文化財はイベントの対象にはならなかった。事業後の昭和42(1967)年には岡崎市民会館が開館し、翌年には東名高速道路の開通に伴い岡崎インターチェンジの供用が開始された。昭和45(1970)年以降、公共施設が相次いで建設されていった。

##### (3) 400年記念事業 (2015)

400年記念事業前に公共施設の整備がほぼ完了した。事業実施頃には広域観光周遊ルート形成促進事業の「昇龍道(SHORYUDO)」計画が観光庁から認定を受け、400年記念事業は「昇龍道プロジェクトアクション・プラン」に組み込まれた。事業後の2016年には、歴史的風致維持向上計画が主務大臣(文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣)から認定を受け、本地域イベントのテーマである徳川家康生誕の地以外にも、東海道路沿道での信仰・祭礼や稲作儀礼、山間部での山里の暮らしなどが重点区域となっている。岡崎公園は2018年現在、4つの岡崎市の計画案(中心市街地活性化基本計画・歴史まちづくり計画・乙川リバーフロント地区整備計画・岡崎(城址)公園整備計画)の対象地内にあり、新しい歴史公園かつ公共施設として整備される予定である。

#### 5. 結論

第1次世界大戦の大戦景気から大正デモクラシーが起り、国民主体となる政治を行う風潮が現れ始めた中、市制施行前年に開催された300年祭は、志賀重昂が主体となって愛郷心の醸成を図り、市制施行に向け住民の意識を揃えて高めるねらいと、岡崎公園の認識を高めた効果があった。志賀自身が徳川家康生誕の地である三河に誇りを抱いており、その主義主張がイベントにも強く反映されたといえる。

戦後民主主義の中で高度成長経済期を迎え、公共サービスの拡大や個人所得の増大により、自治会・町内会の必要性は失われていった中、市町村が合併し、主要道路整備後に開催された350年

祭は、地域団体が主体となって開催されており、新しく市町村合併した地域の住民も参加しやすいように参加型イベントを増やし、コミュニティ形成や、新しい道路のこけら落としといった役割があったと考えられる。

公共施設整備などを経て開催された400年記念事業は、国策である周辺自治体との広域連携事業に組み込まれた。一般的にはボランティアの興隆やその変容、市民参加の在り方の変化といった社会背景があるものの、それに逆行するような行政主導となっており、参加型イベントが少なく外部への発信が主な役割といえる。

以上のように、50年周期で取り組まれている事業ではあるが、回を追うごとに市民や住民が参加し、徳川家に内容もしくは場所が関係するイベントは減少していった。300年祭・350年祭は、新たな行政や整備された基盤を提示し、人心の一体化を図る象徴として徳川家を取り上げたことが推察される。これは、それぞれ市制施行前年と市町村合併・基盤整備直後という、まちの状況が大きく変化している中での開催と関係していたといえる。しかし、まちの状況が比較的安定した中で開催された400年記念事業は、まちの状況よりも地域間交流や広域連携といった国策に準じたものとなっていった。また、市町村合併していくことで、市域全体が徳川家と関係しているとはいわがなくなり、市町村合併しているにも関わらずイベント開催地の広がりには限定的と考えられる。

歴史イベントにおいて、地域の実情を踏まえた目的を設定することや空間の使い方を提示する役割の再確認を行うことが必要となる。市内の様々な歴史的風致が歴史的風致維持向上計画にて示されている現在、徳川家だけでなく地域の歴史を実情に合わせて活かす工夫が求められる。また、イベント毎の事業主催者は地域の歴史に、地域社会を一体化させる働きを期待していたといえる。既往研究では、イベントごとの住民及び参加者への評価や影響は、その後の住民団体の動向などから捉えることができるとされるため、今後も引き続き調査する必要があると考えられる。

謝辞: 本研究はJSPS 科研費 16K08125 の助成を受けたものです。

#### 補注及び引用文献

- 1) 田代利恵 (2012): 文化的イベントが地域協働のまちづくりに果たす役割に関する研究- 古い町並みを有する地方都市を事例に- : 龍谷大学大学院政策学研究 1, 149-168pp
- 2) 碓田智子・西岡陽子・岩間香・谷直樹・増井正哉・畑野浩隆 (2007): 「歴史的ストックを活用した観光イベント型伝統行事に関する調査研究-岡山県倉敷と新潟県村上の屏風祭りと雛祭について-」: 日本建築学会大会学術講演梗概集(九州), 1353-1354pp
- 3) 兼井聖太・佐々木邦博・上原三知 (2011): 長野市松代町におけるまち歩きイベントと地域の評価との関連性: ランドスケープ研究 74 (5), 689-692pp
- 4) 白木里恵子, 久保勝裕, 大垣直明 (2010): 歴史的市街地の再生を目指した連鎖的事業展開に関する研究-北海道江差町を事例として- : 日本建築学会計画系論文集 75 卷(650), 853-862pp
- 5) 岡田洋司 (2014): 志賀重昂における郷土意識と国家意識: 現代マネジメント学部紀要 第2巻第2号, 39-52pp
- 6) 大祭録興事務所構成委員の名前から、一部は町会議員や後の市会議員や市会議長であることがわかっている。
- 7) 岡田大良次郎編 (1915): 家康忠勝両公三百年祭紀要: 家康忠勝両公三百年祭事務所, 111pp
- 8) 岡田大良次郎編 (1915): 岡崎: 家康忠勝両公三百年大祭岡崎協賛会
- 9) 家康公350年祭奉賛会編 (1965): 家康公三百年祭『あおいを偲ぶ』: 家康公350年祭奉賛会, 34pp
- 10) 徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会事務局 (2015): 家康公四百年祭イベントガイド, 46pp
- 11) 新編岡崎市史編集委員会編 (1993): 『新編岡崎市史総集編』新編岡崎市史編さん委員会, 736pp